



# 学校便り 琢磨

令和4年度 第11号 R4.9.20 三豊市立詫間小学校

## 教職員の異動等について

夏季休業中に、藤田 明德先生、大西 優花先生とお別れして寂しい気持ちでいましたが、9月1日から、源 直隆（みなもとなおたか）先生が、本校に赴任しました。放送での始業式の時に紹介し、右の写真のとおり、放送で挨拶をしていただきました。

ホームページのブログでは、すでにご紹介しておりましたが、学校便りでのお知らせが遅くなり申し訳ありませんでした。

源先生には、3、4年生の算数を担当していただいています。担任の教員とのチーム・ティーチングです。源先生は、パソコンがとても得意で、「子どもたちにぜひ、楽しみながらプログラミング的な思考力を高めてほしいです。」と、プログラミング教育についても熱心に研究をしています。

3、4年生の皆さん。楽しみにしててくださいね。



また、先週までの2週間、学生ボランティアとして内海 海里（うつみ かいり）さんが、3年松組の学習支援に入ってくれていました。子どもたちにも人気の若い先生です。

内海先生の学生ボランティアは終了しましたが、10月から3年松組で約1か月間、教育実習を行いますので、しばらくのお別れです。内海先生は、教員志望だそうです。私（校長）も、教育実習に行つて、教員になる決心を固めました。

内海先生も、この教育実習を終えて、きっと私と同じ、いや私以上の教職に対する情熱を高めてくれると思います。

## 5年生 デイキャンプ！

7月の終業式の前日から行う予定だった5年生のデイキャンプが、9月8日（木）、9日（金）に行われました。この様子は、ホームページのブログで、リアルタイムで発信しておりましたのでご覧になった方も多いと思います。

1日目（9/8）は、栗島への遠足でした。船に乗り栗島に行きました。世界的な彫刻家の流さんの作品「サキモリ」を囲んで写真を撮り、城山登山で瀬戸内海の絶景を堪能し、西浜での昼食・浜遊びを満喫しました。2日目（9/9）は、放課後、運動場で遊び、カレーライスとアイスキャンディーを食べ、肝試しと花火を楽しみました。

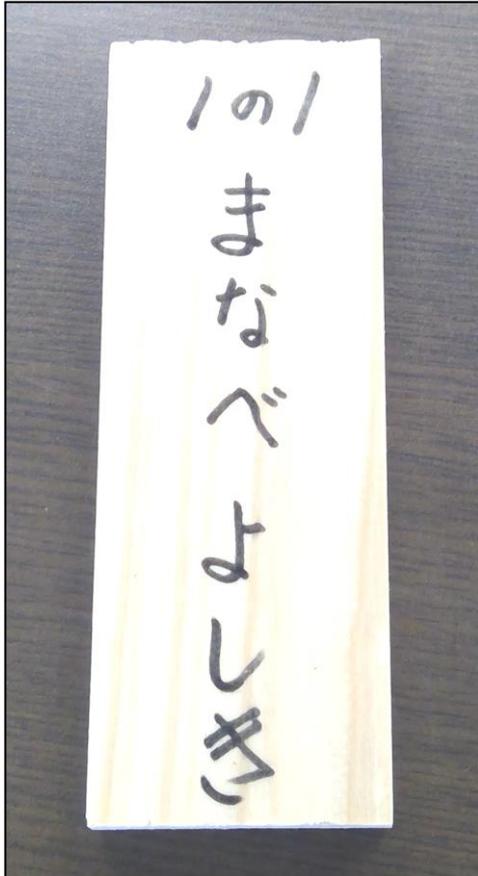


かまぼこ板（水泳の命札）

「かまぼこ板」を知っていますか？木の板に半円形の「かまぼこ」がのっかっていて、かまぼこを食べた後は、木の板だけが残るわけですが、その板のことを「かまぼこ板」と言います。

先日、かまぼこを板から切り落として、この板をゴミ箱に捨てようとして、「そうだ。昔は、この板は大事に取っておいたなあ。」と思い、薄く残ったかまぼこを包丁でそぎ落として洗い、少し干して乾かしておきました。「取っておけば、いつか何かに使うことができそうだ。」といった気持ちからでした。

私が子どもの頃は、少なくとも、この「かまぼこ板」の使い道の一つは決まっていました。それは、水泳の時に使う「命札（いのちふだ）」でした。



左の写真が、水泳の時に使う「命札」です。簡単に言えば、かまぼこ板にマジックで、自分のクラスと名前を書いただけの物です。この板が無ければ、プールに入ることができなかつたのです。

この板を水着バックの中に入れておきます。昔は、ゴーグルなんて無かったので、水着バックの中は、バスタオルと水着と水泳帽とこの命札です。この命札のために、かまぼこ板を取っておくか、水泳が始まる前に、かまぼこを食べるかをしなければならなかつたのです。

では、この板の使い方ですが、プールの入口の所に机が置いてあって、プールに入る前にこの板を机の上に並べます。こうすることで、「1の1の まなべ よしき」がプールに入っていますという合図となります。担任の先生は、この板の数と、実際の子どもの数を数えて一致すれば水泳開始となります。ですから、この命札を忘れるとプールに入ることができないというわけです。そして、水泳が終わると、プールから上がって、各自この板を取りに行きます。必ず自分の板だけを取ります。板が無ければ、その子が取り忘れてるか、または、まだプールの中にいるかのどちらかということになります。プールの中にいるかどうかは、プールの上からでも分かるでしょう？と思う人も多いかも知れませんが、昔のプ

ールは、浄化装置（水をきれいにする機械）が無かつたので、いつも白く（時々緑色だったが）にごっていました。今のように水が透き通ってはいませんでしたので、ちょっと見ただけでは分からなかつたのです。まさに、子どもの命を守っていた札なので「命札」と呼ばれていたのだと思います。

この命札は、おそらくどの学校にもあつたと思います。プールに浄化装置が整備されるようになってから、徐々に、この札は姿を消していきました。わざわざ水泳のために、子どもの数だけ、かまぼこを急いで買うなんてことも、いつの間にか無くなつたのです。

かまぼこ板もそうですが、昔は、けっこうこのような「廃品利用」をしたものでした。今では信じられないでしょうが、「検便（便の検査）」の時、自分の大便を取って、マッチ箱に入れて、それをビニール袋に入れて、学校に持って行きました。そのうち、プラスチック製の容器に変わりましたが、マッチ箱も捨てずに取っておかなければなりませんでした。今考えたら、すごい時代でした。

今は、何でも買えば手に入る時代です。もし、万に一つ、「命札」が復活したとしても、担任の先生がプラスチック板を用意してくれて、それに名前を書く（もしかしたら名前シールをはる？）だけなのかも知れませんね。